

福井大学の平成21年度及び中期目標期間 における業務の実績の概要

業務の実施状況の総括

本学では第1期中期目標期間において、43件の中期目標、246件の中期計画について目標の達成に取り組み、平成16～19年度の実績に係る国立大学法人評価結果に基づく運営費交付金の評価反映分は、86国立大学中第7位※という、これまでの取組が高く評価された結果となった。

業務運営・財務内容等に関する各中期計画については、81件全てを平成21年度末までに実行・達成しており、6年間を通じた中期計画の進捗状況に係る自己評価も「IV年度計画を上回って実施している」が全体の7割に達する結果となった。

※平成22年3月25日 朝日新聞第1面による

業務運営・財務内容等の状況に係る中期計画の自己評価結果

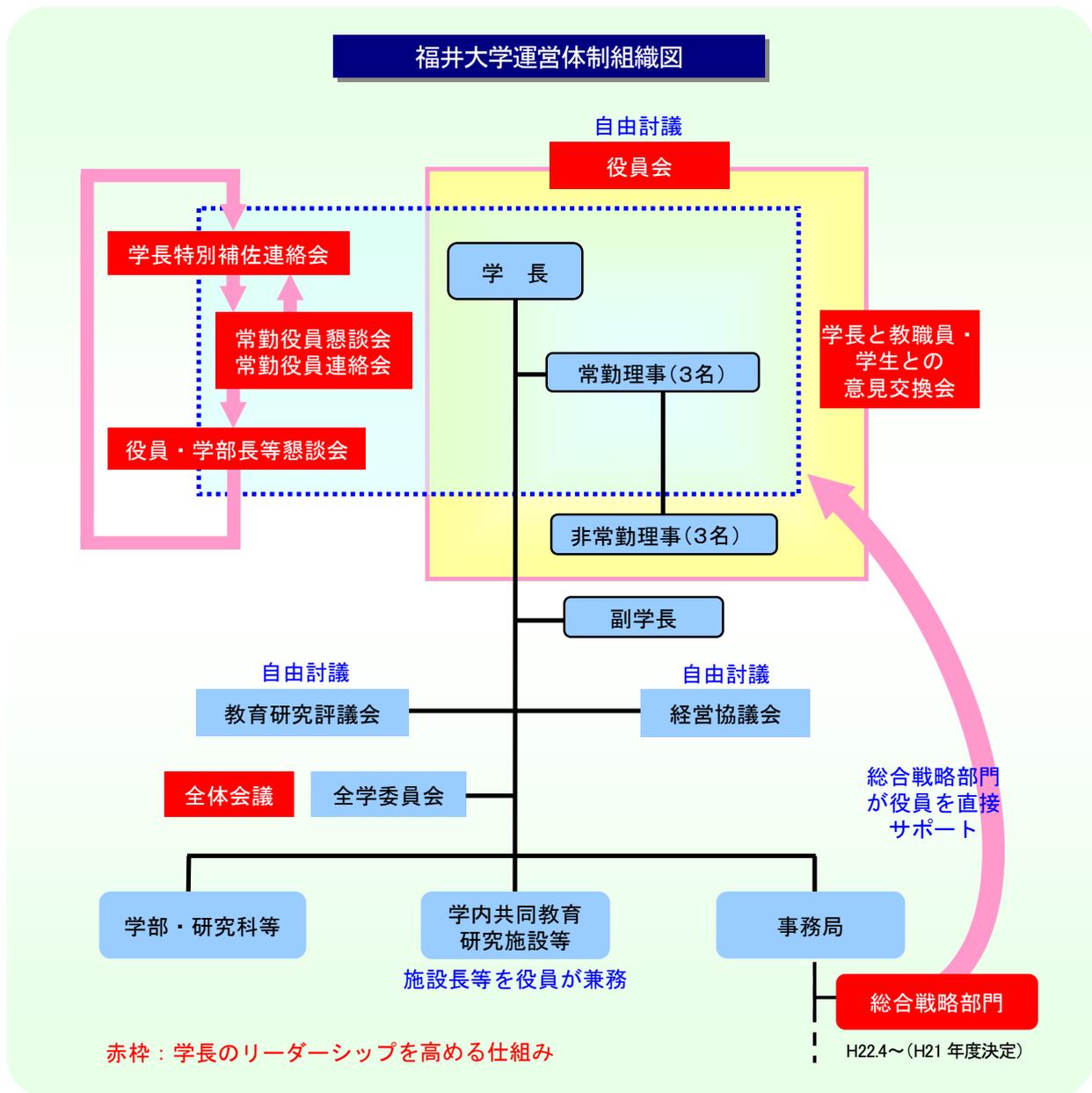
中期目標・中期計画項目	年度計画の数	IVの数	Ⅲの数	IVの割合
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標	48	33	15	68.8%
2 財務内容の改善に関する目標	15	11	4	73.3%
3 自己点検評価及び当該状況に係る情報提供に関する目標	6	5	1	83.3%
4 その他の業務運営に関する目標	12	8	4	66.7%
合計	81	57	24	70.4%

IV：年度計画を上回って実施している Ⅲ：年度計画を十分に実施している

1. 業務運営の改善及び効率化

(1) 戦略的な法人経営体制の確立

学長のリーダーシップの下、「学長特別補佐」「常勤役員懇談会」「役員・学部長等懇談会」等により、重要案件を集中的に審議する一連の検討体制を確立・運用



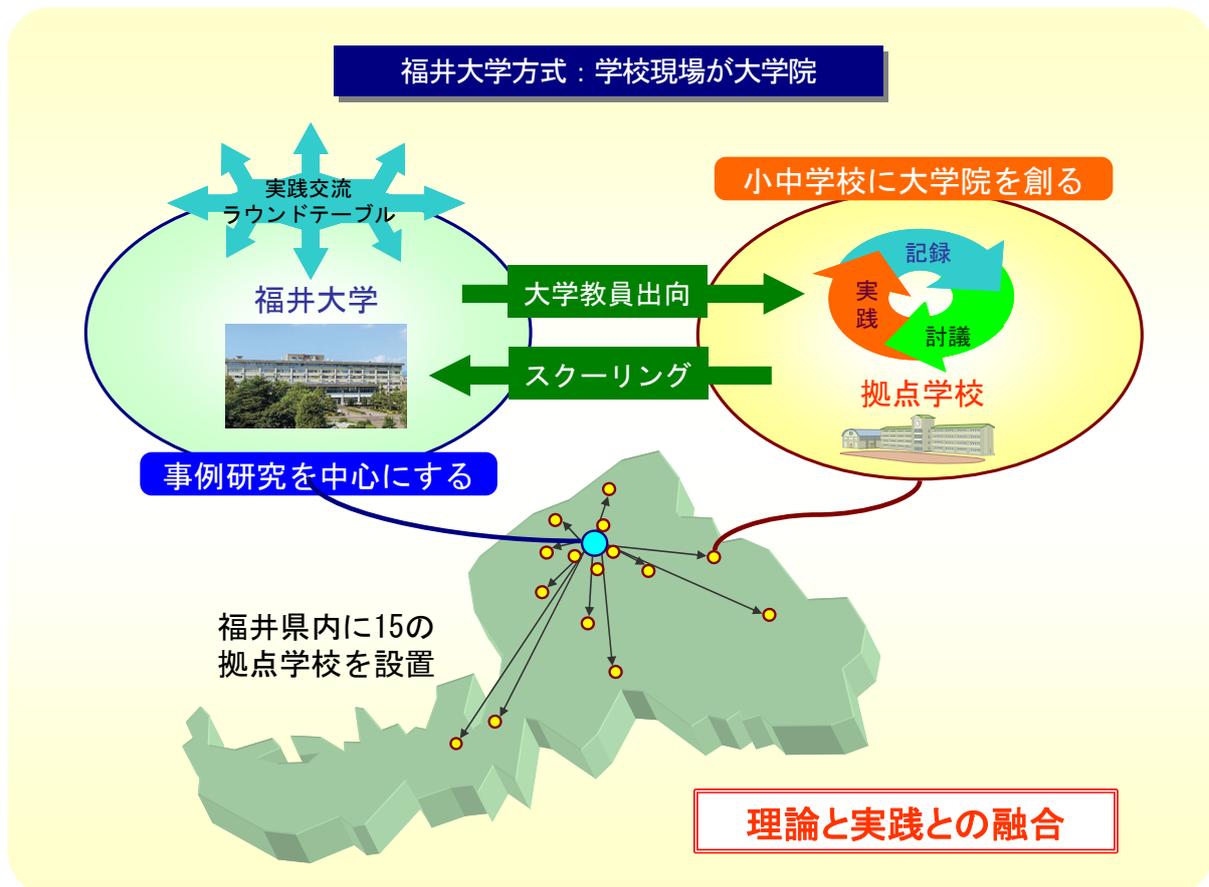
平成21年度における 主な成果例

- ・ 第2期中期目標・計画の策定
- ・ 本学の教育研究の在り方の検討
- ・ 中期目標期間評価への対応
- ・ 学内組織の見直し 等

(2) 教育研究組織の見直し

① 実践性を重視した「福井大学方式」による教職大学院の設置（平成20年度）

1年間の長期インターンシップを実施。米国やフィンランドの教育研究者も注目



優れた取組として、文部科学大臣等が相次いで視察。各方面から高く評価

『地方型の見習うべきモデル』



鈴木 寛
文部科学副大臣

「『福井大学教職大学院は、少なくとも地方型の非常に見習うべきモデルだ』と改めて思いました。」

※上記他、視察に訪れた川端文部科学大臣 (H22. 7. 8)、清水審議官 (H22. 5. 27) も高く評価

『福井大学は教職大学院発祥の地』



鷺山 恭彦
前東京学芸大学学長・
前日本教育
大学協会
会長

「福井大学は2001年に『学校を拠点に実践的な共同研究を進める』と宣言された。この観点は『学校現場が大学院』という鮮烈なメッセージとして全国を駆けめぐった。教職大学院の根幹コンセプトである。」

② 世界トップレベルの研究教育を行う「附属国際原子力工学研究所」の設置（平成 21 年度）

福井県の「もんじゅ」等世界有数の原子力関係施設を活用。
高速炉その他の分野で、世界トップレベルの研究開発・人材
育成を目指す。



開所式の様子（H21. 4. 1）



天野 之弥
国際原子力機関(IAEA) 事務局長



高速増殖炉もんじゅ

IAEA天野次期事務局長

「原子力の平和利用に取り組み福井は世界の財産です。」1月、国際原子力機関（IAEA）次期事務局長の天野之弥さん（62）は福井市内で講演し、高速増殖炉「もんじゅ」や福井大の放射線がん治療の研究などを挙げて「IAEAが目指す原子力の平和利用を實踐している世界有数の地域」と評価した。講演後は県庁を訪れ、西川一誠知事に「福井には原子力に携わる人材育成に期待しています」とあいさつした。
（岡野翔）

「福井は世界の財産」

原子力平和利用の取り組み

福井大学は「放射線がん治療の分野で最先端の研究を推進し、発展途上国に技術指導できる人材も豊富である」と高く評価された。

H21.10.2 朝日新聞 25 面

『世界の中での教育研究拠点に』

「日本の原子力研究開発に関する先端県にある当研究所は、アジアの中、世界の中での教育研究の拠点になっていただきたい。」



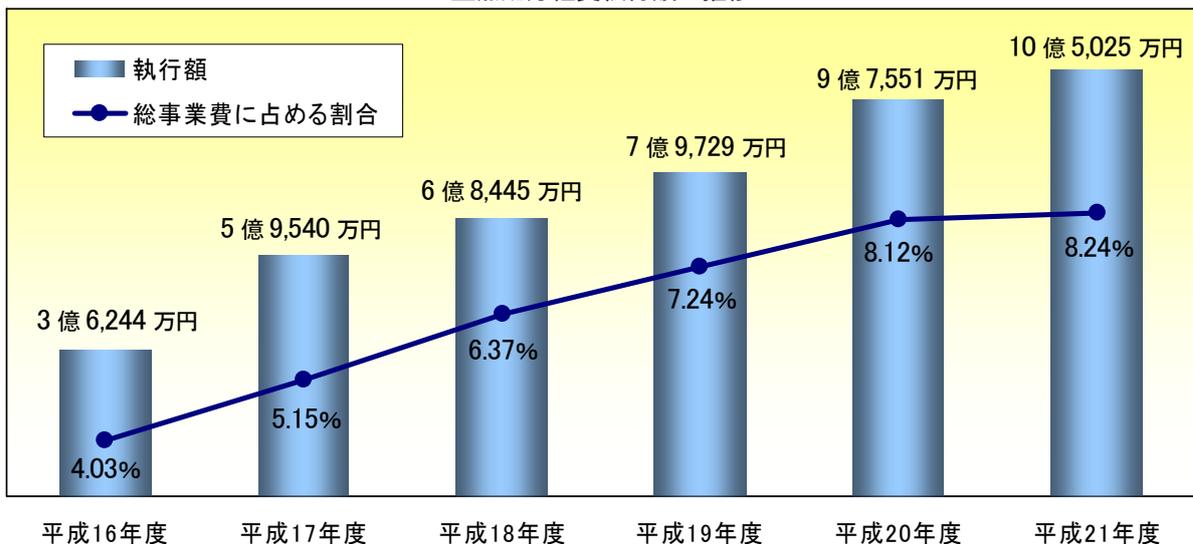
川端 達夫
文部科学大臣

H22. 7. 8 福井大学視察後記者会見のコメントより

(3) 戦略的・効果的な資源配分の推進

長期的視野に立った学長の強いリーダーシップの下、大学全体の予算が減少している中で「重点配分経費」を年々増額

重点配分経費執行額の推移



ポイント制による人件費管理を導入。学長管理ポイントの活用により、必要な人材を確保

ポイント制の 基本方針

- ・ポイント制は、すべての教職員に導入する。
- ・学長管理ポイントにより、柔軟かつ機動的な体制を確立する。
- ・学長は、全学における総定数を管理する。

学長の裁量により、重点分野へ教職員を配置。平成21年度には、重点研究高度化推進本部を設置し、更なる支援体制を強化

重点研究高度化推進本部による人員配置 (平成21年度)

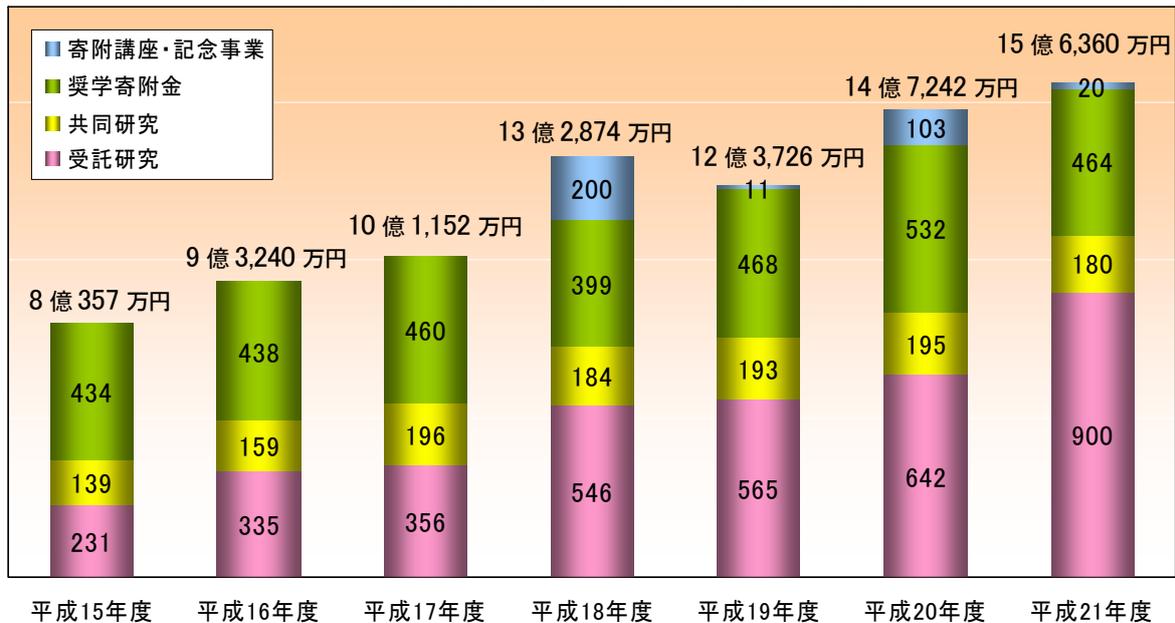
配置先	職名	人数
特命助教	高度研究推進員	9名
	プロジェクト・マネージャー	1名
特命職員	リサーチアドミニストレーター	1名
	研究教育高度化支援員	6名
その他職員	研究機関研究員, 技術補佐員, 教務補佐員, 事務補佐員	53名
合 計		70名

2. 財務内容の改善

(1) 自己収入の拡大

産学官連携の強化等により、外部資金（共同研究・受託研究・寄附金）の獲得金額は大幅な伸びを示し、平成21年度は過去最高額 15億6,360万円を獲得

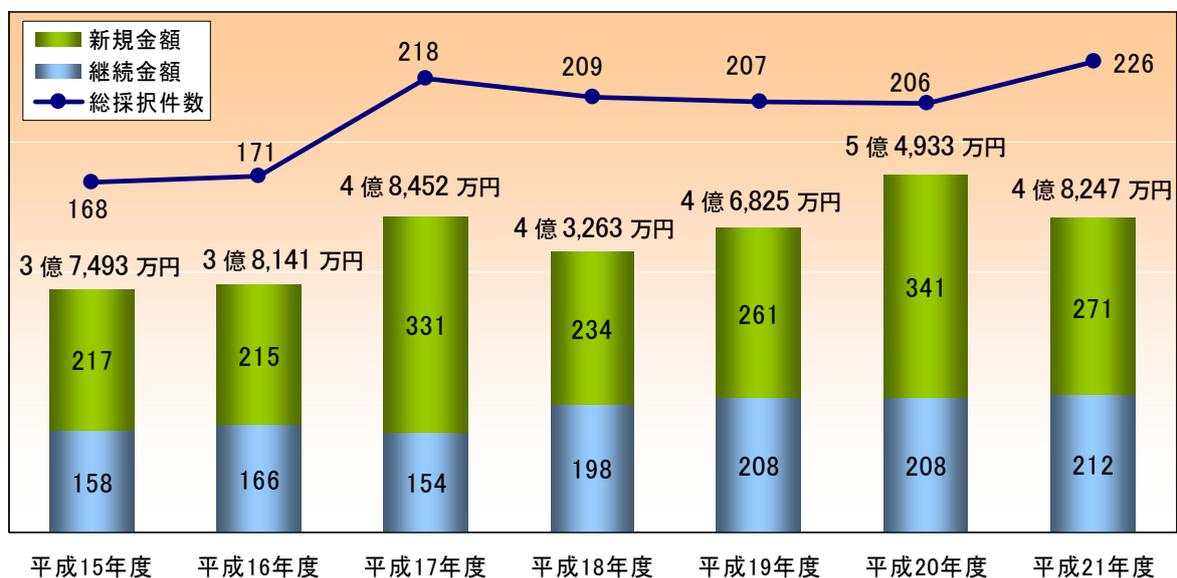
外部資金（受託研究・共同研究・寄附金）の推移



※平成15年度は、統合前の旧福井大学及び福井医科大学の合算数

科学研究費補助金について、平成21年度の採択件数は平成15年度比58件増（34.5%増）、採択金額は1億753万円増（28.7%増）を実現

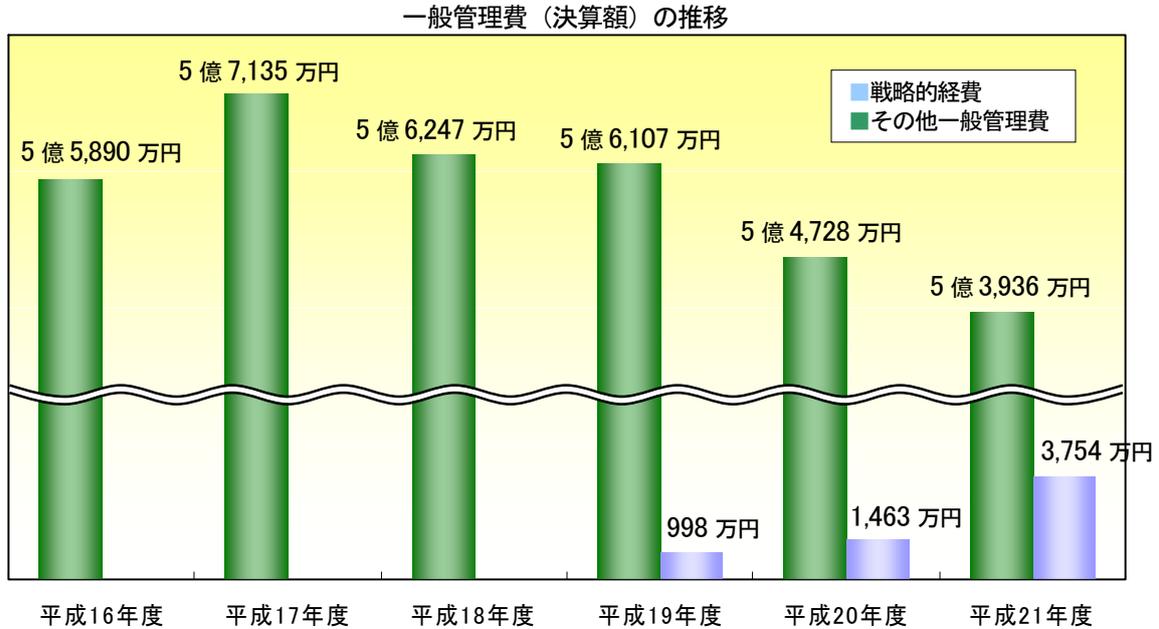
科学研究費補助金の推移



※転入者分を含めない。平成15年度は、統合前の旧福井大学及び福井医科大学の合算数

(2) 全学管理体制による経費の抑制

徹底した全学的管理体制の下、経費の抑制に努めた結果、戦略的経費を除く一般管理費は年々減少



(3) 人件費削減に向けた取組

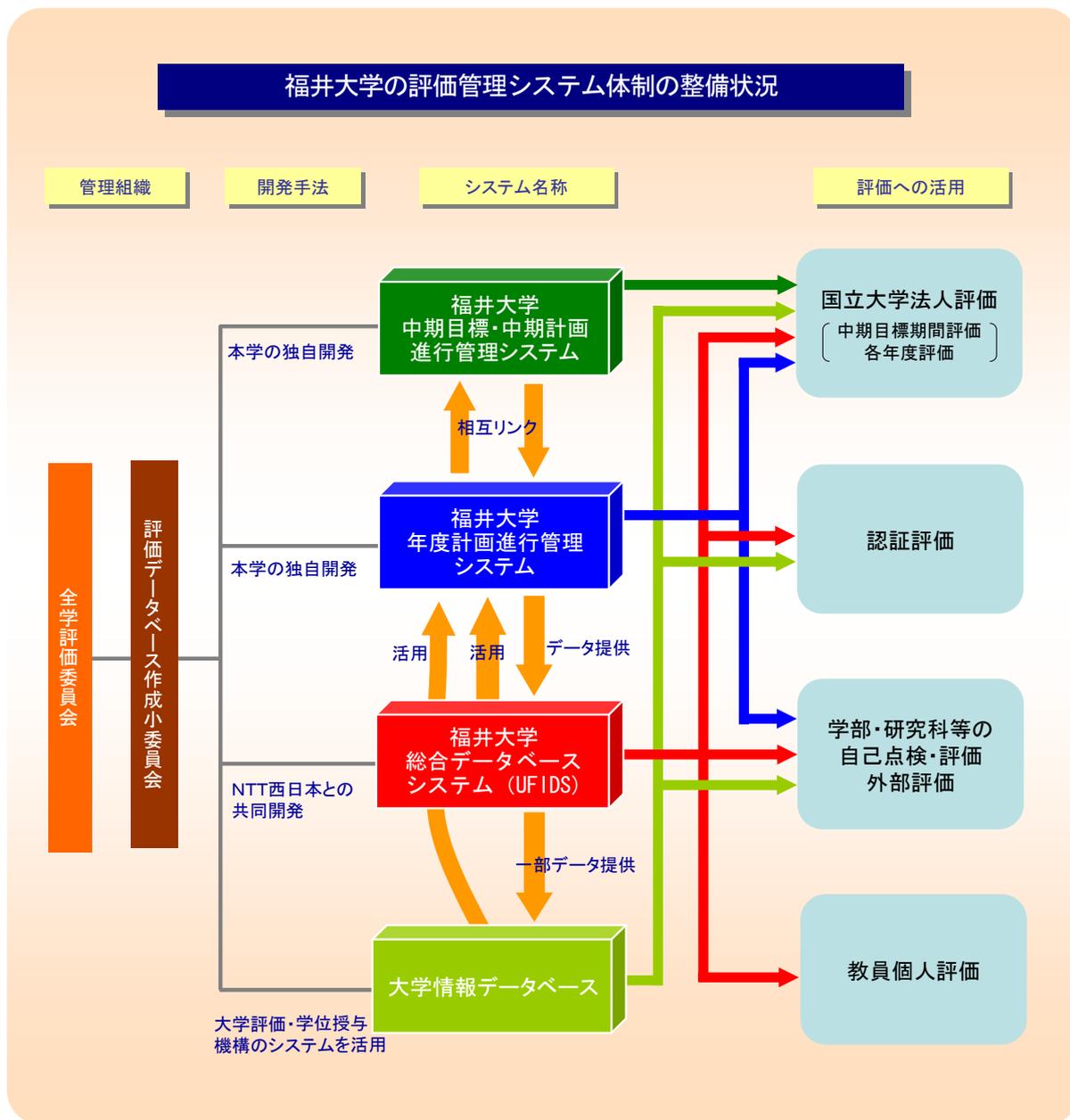
ポイント制の導入による削減計画の推進、地域手当支給相当額の据え置きにより、人件費の削減を推進



3. 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価データベースシステムの整備・活用

中期目標期間評価においては、全 90 法人中 2 法人のみとなる、最高評価「非常に優れている」を獲得。先進的な取組として、多くの大学のモデルケースに



第2期中期目標期間評価に向けた検討

全国に先駆けて、第2期中期目標期間評価に対応した
新たなシステムを独自開発 (平成 22 年 6 月)

(2) 図書館の増改築による積極的な情報公開の実現

総合図書館の増改築に伴い、学内資源の一般開放を積極的に推進。日曜・休日の開館、展示ホールの活用による地域住民への開放により、学外者の入館者数は大幅増加

平成 21 年度実施の総合図書館企画展

年 月	企画内容
平成 21 年 6 月	郷土の歌人 山川登美子展
9 月	貴重書特別展示 往来物（教科書）展
10 月	日本一短い手紙とかまぼこ板の絵の物語コラボ展
11 月	総合図書館今昔ーよみがえる旧図書館
12 月	越前若狭いろはかるた完成記念原画展
平成 22 年 1 月	総合図書館が所蔵する浮世絵展



これまで大学になじみの薄かった多くの地域住民が来館

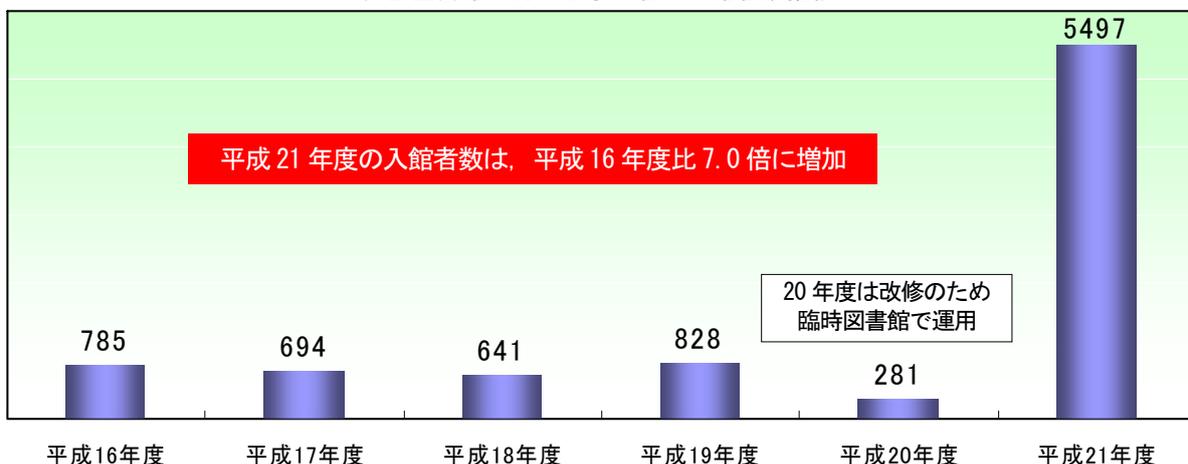


山川登美子展。好評につき県立図書館等でも展示



地元の丸岡町文化振興事業団との連携を実現

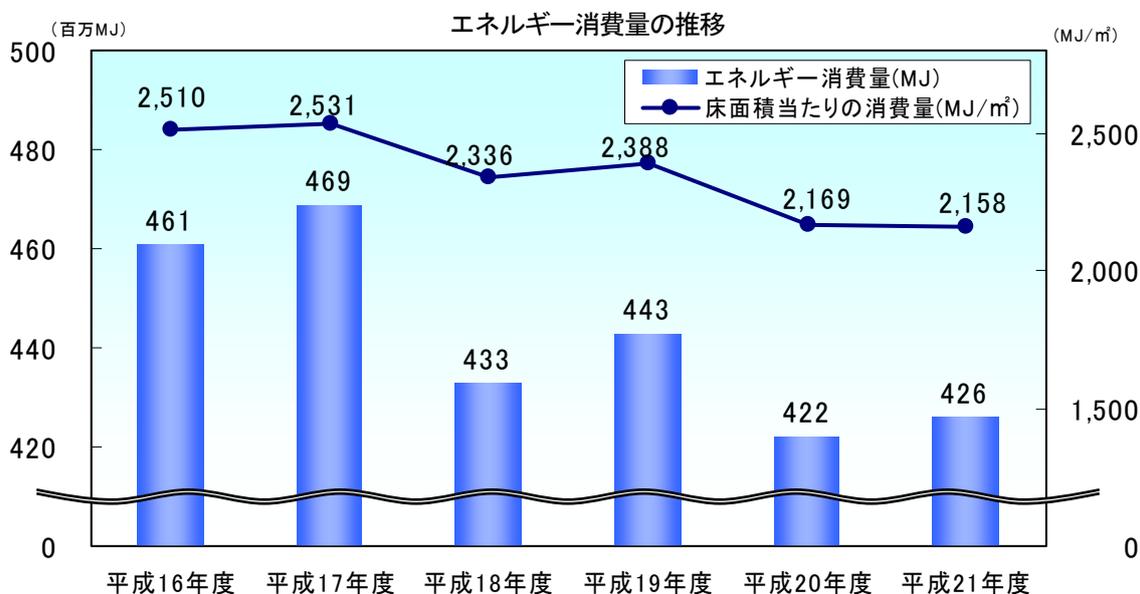
総合図書館における学外者の入館者数推移



※平成 21 年度は 6～3 月の 10 ヶ月間の入館者数

(1) 「福井大学地球温暖化対策推進計画」によるエネルギー消費量削減

全学におよぶ ISO14001 手法によりエネルギー抑制に努めた結果、大幅なエネルギー消費量の削減を実現



※エネルギー消費量は、電気、A重油、灯油、LPガスの使用量を合計したものの。MJ:メガジュール

(2) 新たな整備手法による教育研究施設の整備

施設整備費補助金以外の自己資金・外部資金による新たな整備手法により、6年間で 5,810 m² (本学全体の施設整備面積の 15.5%) の建物を整備

整備の形態	名称等	面積	整備内容
寄附 自己資金	附属病院 臨床教育研修センター	1,100 m ²	附属病院開院 25 周年事業(寄付) + 目的積立金による整備
自己資金	総合研究棟 I (文京)	1,966 m ²	目的積立金によるプロジェクトスペースの整備 (3 フロア分)
自己資金	附属病院中央診療棟	155 m ²	光学医療診療部の改修整備
自己資金	附属病院外来駐車場	2,355 m ²	附属病院前庭にアスファルト舗装外来駐車場 69 台分の整備
自己資金	総合図書館(文京)	600 m ²	総合図書館改修等に伴う目的積立金による増築整備
外部資金 自己資金	保育施設(松岡)	220 m ²	乳幼児を持つ教職員の就業を支援するための 21 世紀職業財団からの助成金と目的積立金による整備
外部資金 自己資金	附属病院	75 m ²	コーヒーショップ等(外来食堂、喫茶店)の整備
自己資金	医学図書館	1,060 m ²	増築(690 m ²) 改築(370 m ²)による整備
寄附	医学部	500 m ²	サイクロトロン棟の整備
寄附	産学官連携本部	134 m ²	地域産学官共同研究拠点整備事業に関連する本部 I 号棟の整備等